

京都精華大学・大学院 入学式

【日時】 2026年4月1日（水） 10：00AM開場 / 11：00AM開式

【会場】 京都精華大学 体育館 ※同伴者は別会場で中継動画視聴によるご参加となります。

【プログラム】

① 入学式 11:00AM ~ 12:00AM

開式	(司会) 学生部長	田村 有香
式辞	学長	姜 駿
教員紹介	人文学部長	高橋 伸一
	メディア表現学部長	吉川 昌孝
	芸術学部長	北野 裕之
	デザイン学部長	岸川 謙介
	マンガ学部長	下村 浩一
	芸術研究科長	吉野 央子
	デザイン研究科長	蘆田 裕史
	マンガ研究科長	小田 隆
人文学研究科長	前田 茂	
入学の辞	新入生代表	長谷川 桃香
閉式	事務連絡	

② 学生証交付 第1部 12:00- 第2部 13:00-

式典後、学生証交付会場にて、全新入生に学生証およびセイカ・ポータルIDパスの交付を行います。必ず学生本人が受取に来てください。

学部・研究科によって交付時間帯が異なりますのでご注意ください。交付会場への道順、学部・研究科別交付時間帯は次ページをご参照ください。

受取が済めば本日のプログラムは全て終了です。

※交付会場のスペースに限りがありますので、同伴者の方は中継会場、情報館、食堂（2Fにコンビニ・休憩スペースあり）、カフェ等でお待ちください。



本学の建学理念や使命、責任についてまとめた手のひらサイズの小冊子を式当日お手元に配布します。ぜひご覧ください。

大学は
学問と教育と
深い友情とを
発見する
場所である。

●新入生への重要なお知らせ

- ① 新入生座席配布資料のうち、「教務チームからのお知らせ」を必ずご確認ください。明日からの新入生向けオリエンテーションのスケジュール、大学の情報配信および履修登録を行う「セイカ・ポータル」について等、非常に重要な情報が書かれています。
- ② 本日交付する「学生証」は、本学の学生であることを証明する重要な身分証明書ですので、紛失しないようご注意ください。裏側に貼付されたシールが通学証明書となりますので、通学定期券の購入の際は必要事項を記入の上、各交通機関の窓口で提示してください。
- ③ 入学前に登録した住所・電話番号などの情報に変更があった方は変更手続きが必要です。新入生座席配布資料の中に「**【重要】個人情報登録について**」を同封していますので、該当する方は速やかに手続きしてください。
- ④ 入学手続きにおいて、提出期限が3月26日の「学歴証明書類（高等学校の卒業証明書等）」が未提出の方は、至急提出してください。
また、在留資格「留学」で日本国内の教育機関（日本語学校、各種学校等）に在籍していた外国人留学生の方は、「終了証明書」もしくは「卒業証明書」の提出も必要です。未提出の方は、至急提出してください。

その他の配布資料についてご不明点があれば、事務局各担当部署に気軽にご確認ください。

教学や学生支援に関連する窓口は、本館（H）の1Fです。

各種問い合わせ先は右のQRコードからも確認いただけます。→

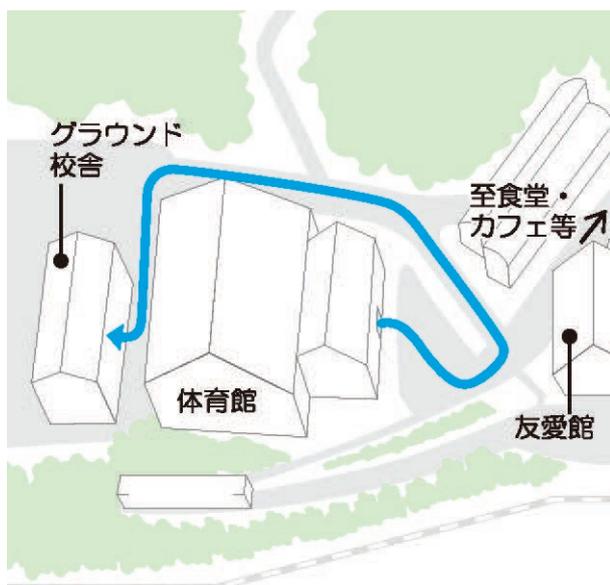


●学生証交付会場・配布時間帯

会場：グラウンド校舎

配布時間帯：

体育館を出て左上坂を進んだ先の建物です。



第1部 12:00~12:45	人文学部 芸術学部 デザイン学部
第2部 13:00~13:45	メディア表現学部 マンガ学部 学部編入学 大学院

※ご自身の所属が対象となっている部の時間帯に、会場にて学生証を受け取って下さい。第2部の対象学部生が第1部に参加しても学生証は受け取れませんので、第2部まで学内でお待ちください。

●2025 年度 学長表彰一覧

京都精華大学では、本学の教職員・学生および卒業生を対象に、学術・芸術・社会活動などを通して本学の名誉を高め、本学の活性化につながる功績を修めた方や団体を学長が表彰する「京都精華大学学長表彰」を毎年実施しています。2025 年度は以下の方々に各賞が贈られました。

受賞者一覧
【学長特別賞】 MOYO Project 2025 デザイン学部ビジュアルデザイン学科
本学デザイン学部ビジュアルデザイン学科の基幹教育である「セイカいろがみによる色彩構成」から応用発展させ、「色、形、素材」に特化した図案、模様を創造し、さまざまなメディアへの展開を試みるプロジェクトとして2011年から継続して実施されている取組。2025年度は京都高島屋 S.C.とのコラボレーションにより、学生15人が制作した模様が1F ウィンドーを彩り、1階 POP UP SHOP ではサコッシュやトートバッグを販売した。 “模様＝日々の変化や移ろいの様子”ととらえ、自然や日常の観察から得られる感覚を基にしたデザインを製品に展開することで、社会に対する新たな発見と創造の提案と、京都の文化継承に貢献した功績により受賞。
【学長特別賞】 「未来のえいでん」アートプロジェクト
本学と叡山電鉄株式会社および京都芸術大学との包括連携協定に基づき、芸術を通じた地域活性化と文化振興、次世代の人材育成を目的とした三者連携プロジェクトとして、2025年10月～12月の1ヶ月半にわたり実施された取組。京都精華大学と京都芸術大学の学生が駅や周辺地域の魅力を研究し、リサーチ成果や利用者へのメッセージを込めた作品を制作、叡山電車の駅ホームや看板などを舞台に展示が行われた。公共空間に新たな彩りを添え、沿線地域住民との交流促進など社会貢献を推進したほか、叡電沿線が芸術系大学の集まる文教エリアであることの認知度向上と魅力発信に貢献した功績により受賞。
【卒業生功労賞】 <small>かねしろ むねゆき</small> 金城 宗幸 (マンガ学部 マンガプロデュースコース 2010年度卒業)
2010年の卒業制作で描いたギャグ漫画『第7位』が「週刊少年ジャンプ」の新人漫画賞・赤塚賞で佳作を受賞、2011年に『神さまの言うとおり』で原作者としてデビュー、同作は2014年三池崇監督により映画化された。2017年に原作を担当した『僕たちがやりました』がフジテレビ系でドラマ化。2021年には同じく原作担当の『ブルーロック』が第45回講談社漫画賞少年部門を受賞、同作品はアニメ化、舞台化、映画化を果たし、世界累計販売部数は5000万部(2025年10月時点)を突破するなど、国内のみならず海外でも注目を集めている。これらによって本学の名誉を著しく高めた功績により受賞。

●京都精華大学展 2026 卒業・修了発表展

本学での学びの集大成である卒業・修了発表展が、2026年2月11日～15日にかけて開催されました。本展示会の全受賞作品・論文は次ページに掲載されています。全受賞作品の紹介および展示会の様子は、以下各QRコードから確認いただけます。



受賞作品紹介



展示会の様子

●京都精華大学展 2026 卒業・修了発表展 受賞者一覧

【学長賞】

受賞者・作品/論文タイトル	学長コメント
芸術学部版画専攻 青山 礼 「たたずむ」「ひきだしのはしら」「そこにあること」「ここに居ます」「ここにも居ます」「うつわびと」	遠い昔からの遺物のようなどこか懐かしい作品の数々。技巧を凝らした立体と平面の独特の造形と、時の流れを感じさせる色のあしらい。独自の世界観の構築を試みる作者の努力と集中に敬意を抱きました。
マンガ学部キャラクターデザインコース 杉本 紗弥 「あそみかん」	4年間を通じて試行錯誤とチャレンジを続けてきた軌跡をわかりやすく示していると同時に、その到達点を親しみやすく提示しています。破天荒とも言えるエネルギーとアイデアがもたらすはずの可能性に期待しています。
国際文化学部人文学科 佐藤 碧 「あかつきとほととぎすー平安時代の時間表現と鳥」	平安時代の時間に対する意識を、文学表現の鳥の声から探るという着眼点も魅力的ですが、論文構成と論旨の明確さ、そしてこねられた文章に感銘を受けました。完成度の高い論文を著されたことを評価したいと思います。

【学長奨励賞】

受賞者・作品タイトル	学長コメント
マンガ学部新世代マンガコース 金地 穂乃歌 「居世界」	ありそうな男女の話から始まるのですが、一気に暗転するスピード感に引き込まれました。その理由もテンポ良く説明され、期待していた関係への諦めと悲哀も説得力を持って描かれています。その諦念の先にある平安に癒されました。
デザイン学部建築学科 塩見 祐貴 「知覚の翻訳」	建築という行為が、身体の周囲に造形物を作成する行いを意味するとしたら、この作品はそのような造形物の成り立ちや機能を原初的な形態にまで遡って探っているように思われます。根源的な探究の結果、独自の建築思想が育まれることを期待しています。
デザイン学部イラストコース オウ ソウリン 「絵本『なかまのアミチ』」	戦争を題材にしていますが、友達を失うという普遍的な喪失感をダイレクトに伝える絵本です。随所に描かれている輝く黄葉が夜空の星のようにも見え、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』を想起させる悲しく美しい物語でした。

【理事長賞】

受賞者・作品タイトル	理事長コメント
デザイン学部デジタルクリエーションコース 鈴木 千晶/庄司 響/キム ナキョン/シン ドンヨブ 「グリムリム」	広い体育館でも際立った展示空間、時間をかけて洗練されたゲームのプログラム、特大にして細部までこだわった絵本等の造作物、丁寧に掲示された4名の制作者と観覧者の声。実に見事な学びと遊びの集大成に拍手を送ります。
メディア表現学部イメージ表現専攻 井上 捷太 「首輪」	15分間の映像に詰め込まれた驚きと気づき。無意識の内面をギュッとつかまれると同時にどこか懐かしさも。この題名で「見て見ぬふり」というテーマをこう表現するかと唸りました。制作の内幕が知りたくてたまりません。
芸術研究科 ト シャノン カヤ 「太陽にふれた時」	圧倒的な存在感とタイトル通りの世界観を表現した作品群に脱帽。一つ一つに織り込まれた色彩と形状、そして時間と情熱から、テキスタイルの多様性と可能性を実感しました。ここに到達するまでの学びの蓄積に敬意を表します。

【木野会賞】

受賞者・作品/論文タイトル
国際文化学部 グローバルスタディーズ学科 清水 佳歩 「現代のろう若者におけるデフ・アイデンティティ形成 ——手話アクセスロールモデルの視点から」
メディア表現学部 メディア情報専攻 山本 慈人 「ニチヒロ (日常ヒーロー)」
芸術学部 テキスタイル専攻 梅崎 結菜 「夢」
デザイン学部 グラフィックデザインコース 調子 ちえ 「もやもやもやもやもやいもん」
マンガ学部 ストーリーマンガコース 佐藤 春日 「友人魚」